
そんな召喚物

『あられ』

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そんな召喚物

【著者名】

ZO330BA

【作者名】

『あられ』

【あらすじ】

不安な異世界召喚モノです。

お愛想不足とか言わないで。

ちなみに勇者召喚じゃないので、そこはよみこしくねー。

なぐりがき

絵空事というのが、好きだった。

絵、空、事だ。漢字一つ一つを見たところで何の意味も無いのだけれど、こつしたら何となく、この言葉が好きだと再確認出来た。漫画や小説にあるファンタジー。現実には有り得ないことが起る話。絵空事。

それは例えば、魔法使いや英雄の物語かもしない。革命を起こす市民の奮闘記かもしれない。それとも、胸が締め付けられるような、純粹な恋についての日記かもしない。

そんなものが、好きだった。

ああ、それは何故なのか。理由はわかってる。俺が一番自覚している。思い出したくもない理由なのだけれど。理知的に考えれば分かることだ。

魔法使い。英雄。革命家。純粹な恋。これらは全て、今の俺には全く関連性が無い。魔法なんて存在しない。英雄みたいな人望もない。革命なんて柄じやない。恋だなんて笑わせる。

絵空事。絵にかいした空のような事。絵は見るモノ。空は遠いモノ。事はその絵、空の中でしか動かない。

彼らは現実には存在しない。彼らは俺とは関わりがない。彼らは俺に優しい。だから、だからこそ、だ。

纏めてみると、つまりこういうことが言える。俺は現実逃避が好きだ、だから絵空事が好きだ、ということが語られる。何とわかりやすく、俺は弱いのだろうか。

昼休みを告げるチャイムが鳴つて五分程が経つた。黒板に書いてあることを[印]し終えるまで五分もかかった。俺は板書をノートに書き[印]すのが、他の人達より明らかに遅い。

うんざりする。嫌気がさす。辟易する。
でも、まだそれはマシだ。許せないことはない。

「オイハ雲、ジュース買って来てくんねえ？」

ほり来た。高崎の声がお願いのような言葉を高圧的に発する。
身長百八十を越え、広い肩幅を持つ高崎と、その周りの奴らを一
瞥して、俺は椅子から立ち上がる。

逆らつたら余計な労力を使うだけだ。面倒なことってキライなん
だよね。

お生憎様。扉からは遠い位置に座っていたので、昼ご飯を食べようとしているクラスメートの隙間を縫つていく。椅子に腰がひつかる。

あ、ああ、悪い。と言われた。ん、ありがとな。

友達やその他の目が俺を捉える中、扉までたどり着く。

自販を目標して教室を出ようとすると俺の背中に、二三本な、という
言葉がかけられた。

落ち着け。まだ、許せないこともない。まだ。まだ。

丁度、そんなことを囁えながら教室を出ようとした時だった。

突然、視界全体が動く歪む揺らぐ。廊下が窓が色を変える。青い黒い紫。

目眩だ。平衡感覚を失う。しゃがみ込む。吐き気がした。何が何だか、わからない。体調は、悪く、なかつた、はず。なのに、目眩が止まらない。

得体の知れないものに飲み込まれてしまっているかのような。怖い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0330ba/>

そんな召喚物

2011年12月31日20時46分発行